令和５年度

音 楽 研 究 委 員 会

世話係	松田　真理（芳川小学校　校長）	委員長	和田　舞（芳川小学校）
委員名	金子　初音（開智小学校）		松村　由美（田川小学校）
	清水　裕貴（鎌田小学校）		小室　彩香（開明小学校）
	安藤　友祐（丸ノ内中学校）		西村　早織（高綱中学校）

目　　次

１　研究の概要　・・・・・・・ １

２　公開授業より

題材名　『「アーティキュレーションの違いを感じ取り、

曲にふさわしい表現を工夫しよう」（全３時間扱い）』

教材名　「すずめの戸締り」　「虹の彼方に」　（中学校３年　器楽）　高綱中学校

・・・・・・・２～３

題材名　『いろいろながっきの音をさがそう』

教材名　「がっきでおはなし」　（小学校２学年　音楽づくり）

「すきながっきの音にあうリズムをえらんで、えんそうしよう。』　田川小学校

・・・・・・・３～４

研究テーマ

自分の思いを根拠や意図をもって伝え合い、主体的に取り組む音楽学習のあり方

テーマ設定の趣旨

音楽科における「主体的・対話的で深い学び」とは、具体的にどんな姿なのか、
子どもの姿を通して探っていきたい。

１　はじめに

今年度の５月８日をもって、新型コロナウィルス感染症が５類感染症に移行されました。これまで制限されてきた授業や行事における歌唱や器楽活動、音楽会等が、それまでの取り組みに、コロナ禍における工夫を生かしながら再開されだしました。この数年間の子どもたちの姿を改めて見返しながら、学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」について、それぞれの授業実践を通して具体的に探っていきたいと考えました。

例年の授業公開に加え、日頃工夫して実践している事例を出し合ったり、音楽科における小・中学校の学習内容の系統性についての意見交換を行ったりする機会を取りました。また、公開授業においては、高綱中学校での授業公開では、教師の範奏などを通してアーティキュレーションの違いを感じた生徒が、意欲的に自らの表現を工夫して考えていく場面が印象的でした。そしてまた、田川小学校での授業公開では、音楽づくりにおいて打楽器を用いたことで、積極的に授業に参加する児童の姿が多く見られました。

来年度もまた、コロナ禍で培ってきたものと、これまでの音楽科教育が積み重ねてきたものを生かしながら、より充実した音楽科教育の実現に向けて、先生方と学び合っていきたいと思います。

２　音楽研究委員会の活動概要

（１）研究テーマ

「自分の思いを根拠や意図をもって伝えあい、主体的に取り組む音楽学習のあり方」

（２）テーマ設定の趣旨

音楽科における「主体的・対話的で深い学び」とは，具体的に子どもたちのどのような姿なのかについて、実際の活動の様子から探っていく。

（３）研究会メンバー　　世話係１名・委員７名

（４）年間計画

	内　　容	開催月日	会場
1	第１回音楽研究委員会 ・自己紹介　　・委員長選出 ・研究テーマ、研究推進計画立案	６月２日（金）	松本市 教育文化センター
2	第２回音楽研究委員会 小中の音楽科教科書の比較、 通知表の評価等の情報及び意見交換	７月１１日（火）	松本市 教育文化センター
3	第３回音楽研究委員会 松本市立高綱中学校授業公開及び研究会	１１月１４日（火）	松本市立高綱中学校
4	第４回音楽研究委員会 松本市立田川小学校授業公開及び研究会	１２月１８日（月）	松本市立田川小学校
5	第５回音楽研究委員会 研究のまとめ	１月２３日（火）	松本市 教育文化センター

３　音楽科授業公開 ①

松本市立高綱中学校３学年　　授業者：西村 早織先生

（１）題材名　「アーティキュレーションの違いを感じ取り、曲にふさわしい表現を工夫しよう」
　　教材名　「すずめの戸締まり」「虹の彼方に」

（２）ねらい　アルトリコーダーの基本的演奏技能を身に付けた生徒たちが、曲に合った演奏表現をつける場面で、アーティキュレーションが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、曲に合ったアーティキュレーションの表現について考え、どのように演奏したらよいか、自分なりの思いや意図をもって器楽表現を創意工夫している。

（３）展開

	学習活動	指導上の留意点及び支援・評価 （◎努力を要する生徒への支援　◇評価）	時間
導入	１　常時活動（チャイム合唱） ・「校歌」の歌唱 ２　課題把握 ・本時の課題把握	・最後の音をしっかり伸ばすよう伝える。	10 分
	本時の目標　「曲にふさわしい表現（アーティキュレーション）を工夫する」		
	・前時の復習 「虹の彼方に」 「すずめの戸締まり」	・前時を振り返りながら確認する。 ◎運指を覚えていない生徒には、テンポを落としたり、デジタル教科書を見て演奏したりするよう声をかける。	
展開	３　アーティキュレーションの工夫 ・アーティキュレーションの基本奏法（スタッカート、レガート、テヌート、アクセント）を、教師の範奏を通して学習する。 ・「すずめの戸締まり」に合うアーティキュレーションを考え、練習する。 ・完成したら、理由やイメージを学習プリントに記入する。	・１年次に学習したことを伝える。 ・強弱等、他の音楽の諸要素をつけたい人には、必要に応じて声をかける。 ◎アーティキュレーションがうまく考えられない生徒には、原曲のイメージからつなげて考えてみたり、適当にアーティキュレーションをつけてみたりするよう助言する。 ◎アーティキュレーションがうまくできない生徒には、まずはタンギングをしっかり行うように伝える。 ◇観察【関意態、(知技)】 ◇学習プリント【思判表】	30 分

終末	4　聴き合い活動 ・隣の人とペアになり、お互いの演奏を聴き合う。 ・適宜、アドバイスをする。 5　振り返り ・次時の内容の見通しをもつ。	・表現が何もついていない「すずめの戸締まり」と比べて雰囲気がどう変わったか、どんな感じになったかを伝える。 ・次時はタブレットを使用して、録音・録画を行うことを伝える。（評価） ◇振り返りのワークシート【関意態】	10分

（4）成果と課題（授業研究会より）

○アーティキュレーションの工夫を考える場面で、最後までリコーダーを吹き自分の表現を試してみるなど活動に向かう意欲的な姿が素晴らしかった。それは、デジタル教科書を使った運指の継続した支援による定着した演奏技能や、展開での適切な教師の範奏からつながる生徒の「自分でもできそう」・「やってみたい」という気持ちから生まれてくるものだと感じた。

○次時、一人一端末のタブレットで自分の演奏を録音して提出する評価方法も良い。

○デジタル教科書を活用した、器楽指導の充実が感じられた。

●評価について

意欲的に工夫を考えていた生徒が「吹けるかは別だけどな。」とつぶやいた。アーティキュレーションを工夫して豊かな表現を考えたが、アクセントやスタッカートなどの細かな表現を技能として実現できるかに生徒も戸惑う姿があった。創作と器楽の技能のどちらで、どのように評価していくかをより具体的にする必要があると考えられた。

4　音楽科授業公開 ②

松本市立田川小学校２学年　　授業者：松村　由美先生

（1）題材名「いろいろながっきの音をさがそう」　　教材名「がっきでおはなし」

（2）本時の主眼　いろいろな打楽器の音色を聴きとった子どもたちが、好きな楽器の音色に合うリズムを選ぶ場面で、実際に楽器を打って試したり、友達と楽器のリズム打ちやそのリズムを選んだ理由を聴き合ったりすることを通して、楽器の音色の特徴に合うリズムを演奏する。

（3）前時　　鑑賞曲「打楽器パーティー」で、打楽器の音色やリズムを聴きとった。

次時　　一人一人が決めたリズムを使って、ペアで呼びかけと答えをつくって演奏する。

（4）留意点　打楽器の数が限られているため、希望が多い楽器は順番に鳴らすようにする。

楽器は６種類・リズムは４種類にする。

音やリズムの特徴に気付き楽器とリズムを選んだ子どもが全体で発表する場をつくる。

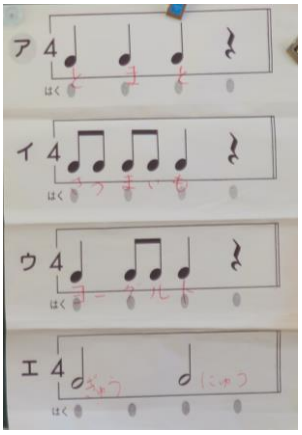
（5）　展開

展開	学習活動	予想される児童の動き	支援・評価	時間
導入	１今月の歌とリズム遊びをする。	・体を動かしながら楽しく歌ったり、拍に合わせてリズムをとったりするだろう。	・体で拍をとるように声をかける。 ・全体で鍵盤ハーモニカ演奏をする。	１０

展開	２本時の学習のめあて確認する。	・４つのリズムを打つ。 ・言葉でいうとリズムがわかりやすいよ	・リズムを言葉にしてリズム読みをする。	7
		＜めあて＞　すきながっきの音にあうリズムをえらんで、えんそうしよう。		
	３楽器の音に合うリズムをためしながら選ぶ	・好きな楽器にはどのリズムがいいのかな。 ・いろいろな楽器をためしたい。 ＜やってみよう＞ すきな音にあうリズムをさがそう。 リズムに合ったならし方をくふうしよう。 ２つのリズムをつなげてもいい。 ・楽器を置いた場所に行き、４つのリズムを順に鳴らしたり、自分の選んだリズムを鳴らしたりするだろう。 ・決まったリズムを友達に紹介する。	・違う楽器で同じリズムを鳴らしたり同じ楽器で鳴らし方を変えたりして音を比べるようにする。 ・もっと長くしたい人は４つのリズムのうち２つをつなげて演奏することを提案する。 ・使ってみたい楽器を聞き、多い場合は、順番に鳴らすことにする。 ・楽器を変えて試したい児童は、移動しても良いことを伝える。 ・リズムが決まったら、カードに記入するようにする。	１８
終末	４決めたリズムを紹介しあい、振り返る。	・全体で、リズム打ちを聴き合う。気づいたことやよかったことを伝える。	・どうしてそのリズムを選んだか伝えて演奏するようにする。「つくるときに考えたことはあるかな。」 楽器の音色やリズムの特徴に合わせて、打ち方を工夫して表現している。	１０

（６）成果と課題（授業研究会より）

○「ア」ならトマト、「イ」ならさつまいも、というふうにリズムに合う言葉を子どもたちと決め出してリズム遊びをしてきていたことから、どの子も正確にリズムが打て、そこに迷うことなく楽器やリズム選びを楽しむことができていた。

○導入の全体の場で、楽器の音色やリズムの特徴に着目させたことが、そのあとの活動で子どもたちがリズムと楽器を選択する視点ができて良かった。

○４５分間音楽であふれる授業だった。「試していいよ」「好きな楽器選んでいいよ」という言葉が、子どもたちの満足感を生んでいた。遊びの要素がいっぱいで子どもたちが夢中で楽器に親しんでいた。